

## 西尾梨「幸水」出荷スタート！ 8月上旬のピーク時には1日6トンを集荷



西尾市では7月29日より、西尾梨「幸水」の出荷が始まります。

市内生産量の半数以上を占める「幸水」は盆前の8月8日から10日にかけて最盛期を迎え、1日あたり約1,100～1,200ケース(1ケース5kg)を出荷します。

【作柄】今年は暖冬の影響により開花が2～3日早かったため、若干前倒しで出荷スタート。6月、7月の長雨の影響も懸念されていますが、現在のところ病害虫の発生も少なく例年並みの仕上がり。梅雨明け(7月下旬)以降の十分な日照量と高温で、糖度はさらに高まる見込みです。

### ◆ 収穫風景 取材対応日

【日時】8月4日(火)9時55分集合

【集合場所】JA西三河あぐりセンター高河原  
(西尾市高河原町埋田104-1)



生産者による収穫風景のイメージ

※集合後、収穫を行っている梨農家 犬塚忠雄さんの梨園(和気町)へご案内します。

※取材される報道機関の方は、JA西三河企画課の尾形までご連絡ください。

※雨天等天候不順の場合、収穫を行わない場合があります。その場合、事前に取材のご連絡を頂いた報道機関の方にはこちらからご連絡いたします。

### ◆ 「西尾梨」の予約販売について

【期間】7月31日(金)～9月25日(金)

【場所】JA西三河 あぐりセンター高河原  
西尾市高河原町埋田104-1  
TEL:0563-52-1873

【取扱品種・価格】 ※各1ケース(5kg入り)、税込)

「幸水」 3,500円  
「豊水」 2,500円  
「あきづき」 3,000円

★予約販売の詳細については、別途チラシをご覧ください。チラシはJA本支店・営農センター・Aコープ・産直店舗のほか、JAのホームページの新着情報にも掲載しています。



地場で採れた旬な味を  
地域に届けています！

# 安全・安心でおいしい「西尾梨」



## 《西尾梨の特長》

### 1. 有袋栽培 ★外観を美しく、安全安心!

産地全体で有袋栽培を行っているのは西三河地域で西尾市のみ！  
梨ひとつひとつに袋がけを行い、収穫まで大切に育てます。

⇒「袋がけ」により、果皮を美しく仕上げるとともに、  
病虫害被害を抑え農薬使用量・回数を減らします。

## 2. 産地全体で取り組むIPM(総合的害虫管理)

こうしんかくらんざい

### ● 交信攪乱剤(性フェロモン剤「コンフューザーN」) ★環境に優しく!

性フェロモン剤の設置により、交尾を連続的に阻害し交尾率を低下させて害虫「ナシヒメシクイ」の繁殖を抑制。  
害虫の発生を抑えることで農薬剤費と労働力の低減につながります。

### ● 虫をもって虫を制す!

#### 「バンカーシート」の活用で天敵を利用

露地ナシにおけるバンカーシートの活用は全国的にも珍しく、東海3県では西尾市と豊田市で2018年に初めて試験を実施！農薬の効き目が低下し「ハダニ」被害で苦勞する農家がたくさんいることを背景に、西尾梨の安定生産に向けて「ハダニ」対策に力を入れています。

「ハダニ」を捕食する天敵「ミヤコカブリダニ」を農薬や環境変化の影響から保護し、増殖・放出する資材「バンカーシート」を活用！土着天敵と天敵製剤を組み合わせることにより、農薬散布回数が減り、コスト低減や労力削減につながっていきます。

※IPMとは、化学農薬をできるだけ用いずに、輪作体系や抵抗性品種、熱による消毒や機械などを用いた物理的な防除、天敵やフェロモンの利用なども組み合わせる総合技術。



バンカーシート設置のようす(ナシ)



産地全体で“環境に優しい防除”に努めて  
安全・安心な「西尾梨」を生産しています！

### 【生産者部会情報】

名称：JA西三河梨部会（鈴木榮部会長）

部会員数：61名

耕作面積：約16.5㌥

年間生産量：約88トﾝ ※JA西三河梨部会による共選出荷のみ（2019年度）

主な出荷品種と収穫時期：

「幸水」…51%、7月末～8月上旬

「豊水」…31%、8月下旬～9月中旬

「あきづき」…8%、9月中下旬

「新高」…10%、9月下旬～10月上旬

流通：あぐりセンター高高原では朝・夕の1日2回生産者から集荷。

安城市の選果施設へ運び、等階級別に分けられたのち、主に愛知県内の市場へ出荷されます。